

シンポジウム【看護師のHBOへの関与】 看護師によるHBO管理のポイント

金子裕之 高野元子

医療法人 健愛会 健愛記念病院 外来看護部

【当院の治療装置】

当院では酸素加圧方式による2台の第1種装置を使用しており、平成8年にバロテックハニウダ社製KS-202を導入後、セクリスト社製2500Bを追加導入しておりその後2500Bを2800Jに変更し現在に至る。当院では便宜上KS-202を1号機、2800Jを2号機と呼んでおり年間約1,100件の治療を行っている。当院には臨床工学技士が不在の為、管理医と相談し指示を仰ぎながら看護師のみで操作・管理を行っている。

【予約管理】

令和5年6月現在、高気圧酸素治療専門技師は1名。外来所属の看護師はパート職員含め20名である。そのうち18名が装置の操作を行うことができるため、外来看護師の一般業務の一つとして従事している。また、治療患者の予約管理、調整なども行っており、毎日の高気圧酸素治療業務終了後に予約の変更・確認をその日の担当者が行っている。予約の時間はあらかじめ決まっているが、患者の状態で加圧・減圧時間の延長があるため次の予約患者がスムーズに治療を行えるように調整している。

MRSA感染患者などの治療後は汚染部位の消毒だけで良いというのが基本であるが、当院では可能な限り最後に行い、終了後に0.1%塩化ベンザルコニウム液を使用しストレッチャー周囲や装置内の清掃を行っている。また、抗がん剤による治療後やハイパーサーミア治療後の患者に対し治療後の患者の状態に合わせ治療を開始できるよう時間調整している。

【装置の安全管理】

装置に対する安全管理は、毎日の始業前点検・試運転・終了後点検をチェックリストに沿って行っている。異常を発見した場合は看護部長に報告、看護部長より管理課在籍の高気圧酸素治療専門技師に連絡し状況を確認後業者へ連絡するようにマニュアル化している。また、年間保守点検についても管理課が窓口となり業者へ依頼している。マニュアルは内線電話近くに

置きすぐに確認できるようにしている。

【患者管理】

患者管理の一つとして装置内温度の管理がある。夏場は特にKS-202の装置内では30℃を超えることがある。室温を下げ対応しているが下がり難い場合は加圧後の換気入ってから換気量を増加させ温度を下げるなど治療中の患者が少しでも安楽に過ごせるようにしている。また、腸閉塞患者や脳梗塞患者などは治療中に嘔気が出現する患者もおり、嘔吐リスクの高い患者に対し側臥位で治療を行い、誤嚥や気道閉塞など患者のリスクを考えできるだけ限りのリスク軽減に努めている。

近年治療を受ける患者も高齢化しており、認知症を伴った患者も増加している。認知症の患者は説明した内容を忘れることが多く治療中の耳痛に対しその都度説明などの声掛けを行い、操作する看護師間での申し送りにも注意している。また、冬場に限らず高齢者は使い捨てカイロを使用している患者がいるため高齢者、特に認知症患者の持ち込み物に対しては注意を払っている。

【業務管理】

業務については毎日の担当者が日報の作成を行い、月末に日報をまとめた月報を作成している。年始には前年の月報をまとめ年間の患者数・治療疾患・治療回数を記録し外来看護師全体で把握できるようにしている。

【スタッフ管理】

外来看護師は当院に就業し始めて装置の操作方法を学ぶが、2台の装置の操作法が異なることから操作の間違えがないかなどを常に考え従事している。また、急変時の対応についても外部からはマイクによる会話でしか患者に干渉できない事にも大きな不安を抱えており、病棟看護師の知識不足による非協力的な対応に対してもストレスを抱え業務している。高気圧酸素治療に従事する看護師のストレス緩和の為に高気圧酸素治療専門技師の育成が必要である。また、看護部全体で知識を深めるため、病院長（管理医）・看護部長による教育集会や地方会への参加を奨励している。

今後いかにストレスや不安を軽減していくかが当院の課題でもある。